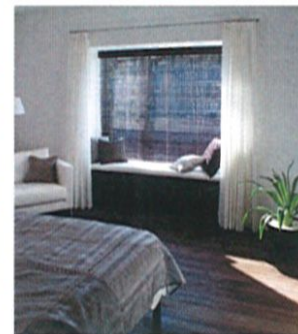


12-3 | 出窓の輪郭を強調してバランスを整える [設計: 矢板建築設計研究所]

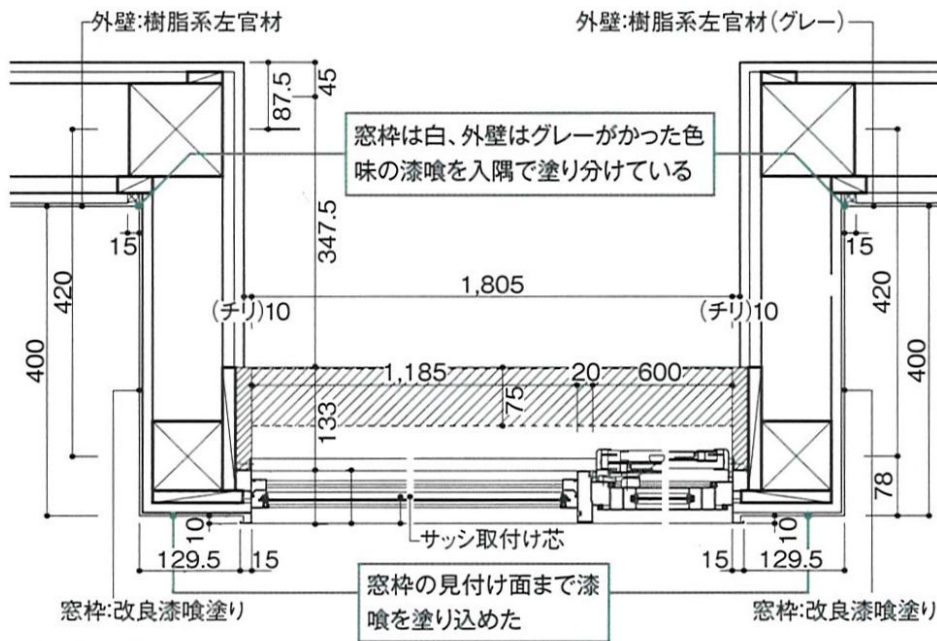
美しい外観とするには、面(壁)に穿たれた孔(窓や玄関)と、面に付加された突出物(出窓や庇)のバランスを整えることが重要だ。なかでも出窓は、外観に個性を与える要素として有効だが、その立体感は慎重に検討する必要がある。本事例では、既製品のサッシで明確な輪郭をもつ出窓を1階と2階に設けた。標準の納まりでは窓枠が少し外壁から出た半外付けとなるが、その窓枠が壁に対して孔でもなく、突出物でもなく曖昧に見えて美しくない。そこで、壁に付いた突出物として強調するべく、外壁と同じ漆喰風左官材で塗った窓枠にサッシを取り付けた。



左: 突起物として輪郭を強調した出窓 | 中: 玄関横の袖壁と庇は出窓よりも突出させた
右: 出窓を窓際のベンチにして、外部を感じる“場”をつかった



庇で覆った掃出し窓は、半外付け窓の枠を壁から引っ込めてフラットに納め、面に穿たれた孔とした。玄関扉と出窓の高さ、2階出窓の位置をそろえた。屋根はアルメットルーフィング【※】葺き



※ ガルバリウム鋼板とほぼ同じ組成のジンカリウム鋼板を基材とし、表面に自然石粒を吹き付けた屋根材のこと

12-2 白井の家、写真:i+i設計事務所

12-3 te NEO、写真:矢板建築設計研究所

建築知識

January 2014 No.710

1

とんでもなく
仕事に役立つ
ファサード図鑑